

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

2014年12月号《No.6》

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-20-102

TEL 042-577-6181/FAX 042-577-5574

今月の聖句

私たちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。

コリント信徒への手紙二 4章16節—18節

主題

国際会長	Isaac Palathinkal	「言葉より行動を」「今すぐやろう！」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
東日本区理事	田中 博之	「誇りと喜びを持って」
あずさ部長	望月 勉	「スピードをもって前に進もう」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指して」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 4 q 1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

11月出席率82% 在籍者11名 出席者9名 メネット1名 ゲスト5名

ニコニコ 9778円 モンゴルファンド 5000円 (西クラブより)

熟成と黒と白

松田 啓

このブリテンが届けられるころは年末どさくさ選挙も終わり、来年を見据え始めるころ。

歴代の総理の銘言・迷言に「総理大臣になると見えなくなるものが三つある」三つの意味は「お金」「人の顔」「国民」と、2・2・6事件で危うく暗殺から免れた岡田啓介。敗戦処理に奔走した米内光正は「どんな状況でも今を最高のものにするために行動しろ、人間というものとは何時如何なる場合でも自分のめぐり合った境遇をもっとも意義たらしめることが大切。初代総理伊藤博文は「戦争が国家の利益になることはない」とハルビン駅頭の歓迎演説の直後暗殺された。

戦後熟成思考をかなぐり捨て「貧乏人は麦を食え」以降「政治とは数であり、数は力、力は金だ」とか「私の内閣の方針に反対す勢力はすべて抵抗勢力であります」積み重ね思考から「前例がない」だけ残して「それはもう古い」とばかり黒か白の時代。ちょっと油断で淘汰されてしまい、生きずまった、自信を失った、疲れはてた若者たちのお遍路さんが増えているという。八十八箇所という舞台装置の上を歩き徹す工程で本人にしか分らない何かの種にめぐり合い、その種を感謝と喜びで熟成させている自分に気付き味わっている。来年は熟成志向の年にしたい、我々の回りにはしっかりした優しい眼差しで見据えた活動をしている若者が大勢いる、我々は彼らに何が出来るのか。

1 1月例会のようす

日 時 11月12日19時 場 所 西東京センター

司 会 石丸ワイズ 聖書・祈祷 小坂メネット 受付 山本・渡邊ワイズ

ゲスト 衣笠 部ユース事業主任(埼玉クラブ) 権藤ワイズ (コスモスクラブ) 古市OB

長津ワイズ (サンライズ会長) 伏木 萌子さん(札幌クラブ会長のコメント)

卓話「オーガナイズドキャンプの目指すもの」 ICU 高橋 伸先生

今回の卓話はリーダー育ちキャンプのプロ。仲間は懐かしく思い出し現役スタッフは歴史と現在を行き来し、ユース事業主任、リーダー時代の仲間、 そのコメント、西東京センターのリーダー達とスタッフが集う！ 我々クラブもやっと外に向かって元気の発散をし始めた。

日本でイメージされキャンプは自然の中の野営と炊飯だが本来のキャンプはオーガナイズドキャンプであり、YMCAのキャンプはオーガナイズドキャンプを指している。「しっかり準備され組織立てられ整理され体系化されものだ」から話を起こされた。整理された刷り物を抜粋してしるすと、

(定義) 大自然の環境において、よく訓練された指導者のもとに行われる共同生活。

(ねらい) 生活能力、良い習慣健康、工夫、友人、助け合い、責任感を養う。

(条件) 組織的な生活のために共通の理念、よくトレーニングされた指導者、計画とプログラム、共同生活の体験。

(ねらい) 生活能力、良い習慣健康、工夫、友人、助け合い、責任感を養う。

YMCAのマークはBody(身体) Sprit(精神) Mind(知性) を表しているがFour Fold Program(全人各的教育)にはSocial(社会性)が加わるなどの話から数度にわたって参加したメイン州のキャンプオーアトカの英国国教会の青少年活動が発展したギャラハードプログラムを例に話された。少年7才から16才が対象。モットーを7~10才は有用、11~13才は忠実、14~16才は心理の3段階に別れ各ロッジにリーダーが付き共同生活しトレーニングを受ける、期間は4週間、3週間、1週間とあり4・3週間は週400ドル1週間クラスは無料、夫々支払い能力で決める。プログラムは旗揚げ、食事、運動、クラフトなど年代に応じた内容がきちんと組まれスポーツでは水泳、ライフル、道路使用方をクラフトは生活に密着した鉈、電ノコ、旋盤の使用法(自宅は自分でつくる文化)、と特に安全を厳しくトレーニングされる。精神面は特定の理想的人物に自分もそのようにと努力し儀式を重んじ自分の行動規範を冷静に見る。それを経て高校になればリーダー補佐になり専門のトレーニングを受けたリーダーとなる。YMCA生活をしたOBたちはとても懐かしそうだ。

その間その間私の頭をよぎったのは西部劇の殺し文句「俺のやることにつべこべ言うな」それが日本映画では「親分なげあつしに死ねと・・・」農耕民族系は縦に文字を書き志向もそのほうが心地よい、横書きの遊牧民は個人志向のほうが生きやすい。百年戦争、ばら戦争で兵を統率し作戦し思うように敵に向かわせるには強烈な手段と魅力が必要だったろう。それが磨き上げられ確立されたのが善人格的教育なのではないか。

縦は横に横は立に、お互い無いものに憧れる。YMCAは磨き上げられた姿で、日本に上陸し日本は素直に受け入れたのではないか。だからYはそのままで分りにくく、分るためにはその中に入ってしまわなければならない。話に聞き入ったり戸惑ったりしているリーダー達の顔を読みながらそんな考えが私の頭の中で渦巻いた。

太田さんを偲んで

訃報に接し、お宅に伺い、安らかなお顔を拝見しました。

昨年の武蔵野多摩ワイズ 30 周年の準備の打ち合わせ会に参加の道中、具合が悪くなり、それ以降療養生活が続きました。

持病の難病の他に、脳腫瘍の手術と入院を繰り返えされ、本人も辛かったことと思います。付き添って看病され、家庭で最後を看取った奥様はさぞ大変だったことと推察いたします。

ワイズがなかったら YMCA を知らなかった
ワイズに入らなければ こんな友人を持てなかった
ワイズで各地に行けたから Y につらなる人がいる事を知った
ワイズで役目をおおせつかったから
いろんなことを真剣に考えた
だから
これからもワイズでいたい
ワイズの輪の中にいたい

太田さんの印象は、「男は黙って ○○」と実行力があり、泣き言を言わない方でした。ワイズの運営でも問題が多々ありますが、ピンチでも動じない潔さがあったように思います。31 年間ワイズでご一緒できて幸せでした。有難うございました。ご家族皆様の上に、豊かな主の恵みと平安がありますようにお祈りいたします。 伊佐 節子

本年 10 月 26 日に太田太さんのご逝去の報に接し、大きな悲しみを感じました。東京武蔵野多摩クラブにとって太田太さんは「育ての親」です。親を失ったクラブは今後力を合わせて行かねばなりません。個人的な事になり恐縮ですが、私はお酒が好きで、太田さんもお酒好きでしたので、部会等の会合の後、太田さんと 2 人で良く飲んだことを思い出します。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

太田さん、お世話になりました。ありがとうございます。

清水 彰直

私がワイズに初めて参加したのは、2001 年の 2 月でした。昨年、東京武蔵野多摩クラブは 30 周年を迎えました。、記念誌の編集を担当する事になり、クラブに残されていた昔の資料を読むチャンスに巡り合いました。

上の枠これは、東京多摩クラブ 5 周年の記念誌に太田さんが残されたメッセージです。私はこの文章を見つけた時、太田さんのワイズに対する強い気持ちを改めて知り、記念誌のはじめの文章に使わせて頂きました。記念誌の印刷直前の例会は、久しぶりに奥様と参加して下さい、クラブの皆と一緒に写真を取りました。



太田さんはクラブの中では物静かなのですが、でも存在はとても大きく、目立たない所で、しっかりとクラブのかじ取りをされていて下さった気がします。

太田さんから、『クラブの会長を！』というお話を頂いた時、ワイズの事をまだよくわからないから…と言う私に、だから会長になってごらん下さい！と言われた事を、今でも覚えています。お陰様で色々な方にお目にかかるチャンスを頂き、多くの事を学ばせて頂きました。どんな時も、最後に太田さんがお話しなさる言葉は、深く心に残るものでした。どうぞこれからも私達を見守っていて下さい。

石丸由理

しごかれたこと 無茶振りされても立ちあがると同時に言葉が口をつくこと。

常に問題意識を・・・

自分が一つのポジションに着いたら先ずそれを誰に譲るか見据えること第 1 番目の仕事。

私もそのとおりにした。

指針を示したら後はだまって本人の判断と行動に任せ見つめる。

ワイズ！ 松田 啓

私にとって太田さんは入会以来ワイズ、ワイのお師匠さんでした。いつも多くは語られませんでしたのが的確なアドバイスをいただき、背中中でワイズの何たるかを教えていただきました。太田さんありがとうございました。 宮内 友弥
ワイズの例会の後、2 次会でおいしそうにお酒を飲まれる太田さん。そのあと、途中まで電車でご一緒させていただくこ

とが何よりの楽しみでした。静かな雰囲気の中、なんでも見通されていた太田さん。もっとご一緒したかった。

山口 直樹

入会後まだ日も浅く、あまり関わったことはありませんでしたがこのクラブの礎を築かれたということは予め聞いておりました。復帰されて、ともに活動してみたかったです。とても残念です。

渡辺 大輔

西東京YMCA便り

村山 達哉

12月になりました。すっかり冬らしい気候となり、街はクリスマスのイルミネーションで彩られています。日に日に寒さが厳しくなっておりますので、どうぞ体調など崩されませんようご自愛ください。

さて、西東京センターでは11月に様々なイベントが催されました。11月2日(日)に実施いたしました「西東京フェスティバル」では、サマープログラム、定例活動の参加者とそのご家族、ボランティアリーダー、スタッフを合わせて約100名が高尾の森わくわくビレッジに集い、賑やかな1日を過ごしました。リーダーが定例活動ごとに分かれ準備をしたブースでは、親子で楽しめるゲームやクラフト、ミニお好み焼き作りなどがあり、それぞれの場所ではリーダーの指導や説明の後、親子一緒に、またリーダーも一緒になって楽しむ姿が見られました。最後は参加者全員で一つの火を囲み、キャンプファイヤーを行いました。歌を歌ったり、リズムに合わせて体を揺らしたり、火の周りを踊りながら周るなど、どの参加者も笑顔が溢れ、集まった全員が一つになった、そんな時間でありました。キャンプや定例活動に参加している子どもたちの保護者は、普段は写真や子どもたちの話ぐらいでしか様子を知ることが出来ないのですが、親子と一緒にYMCAのプログラムを体験し、リーダーと子どもたちの関わりを間近で見ることで、よりYMCAのことを知り、安心して、期待して子どもたちを送り出していただける機会となったと信じております。

12月に入り、年末のプログラムも近づいてまいりました。リーダーたちは毎日のようにセンターに集まり、意見を交わしながら、キャンプに向けて準備を進めております。実技のトレーニングも控えており、キャンプへの気持ちを日々高めているところです。無事に実施出来ますよう、どうぞお祈りください。

今年1年もワイズメンの皆様からたくさんのお支えをいただきました。感謝しております。来年も皆様よいお年をお迎えください。

<西東京センター及び東京YMCAの主な予定>

- 12/1 座学リーダートレーニング(歌唱指導)
- 12/1-3 実技ディレクタートレーニング(スキー指導法)
- 12/6 西東京ファミリークリスマス
- 12/14 スキーキャンプ打ち合わせ会
- 12/18-21 スキー実技リーダートレーニング(妙高ユニット)
- 12/19-22 スキー実技リーダートレーニング(尾瀬ユニット)
- 12/26-27 わんぱくキッズ(冬季一泊プログラム 引率:中元)
- 12/26-29 キッズスキーキャンプ(冬季スキーキャンプ 引率:村山)
- 12/26-30 シュプール・ユースキャンプ(冬季スキーキャンプ 引率:篠寄)
オール東京ユースキャンプ(冬季スキーキャンプ 引率:鳩山)

12月例会 YMCAX西東京センター合同です、6日12時 Y福専集合、ファンファーレとトーチタイム演奏です。
忘年会、19日7時から小樽(志田ビル) 会費5000円。

新年会 在京ワイズ合同新年会に合流 1月10日12時30分 桜美林大学多摩アカデミーヒルズ